全国生協からのメッセージ

「震災発災３年目を迎えて」

この2年間、被災地の復旧復興にあたって、全国の生協がさまざまな支援活動に取り組んできました。このたび、11人の生協役職員・組合員から、被災地へ向けたメッセージをいただきました。

神奈川県生協連　専務理事　丸山善弘

私たちは引き続き全国の生協とともに、東日本大震災を忘れない取り組みと、福島支援の活動を継続的に進めていくとともに、連合神奈川と労働福祉団体で構成する東日本大震災避難者連帯事業実行委員会、かながわ勤労者ボランティアネットワークをはじめ、神奈川災害ボランティアネットワーク、守りたい・子ども未来プロジェクト等の県内のさまざまな皆さまと更に連携をしながら心と力を合わせて活動を進めてまいります。

東海コープ事業連合　共同購入事業本部　農産商品部果物課　久野正人

昨年、東海コープでは福島の復興支援として「福島の桃」の取り扱いを行ないました。産地の状況、除染の努力を正しく伝えることにより多くの利用がありました。また桃を利用した組合員さんから産地への励ましの声をたくさんをいただき、産地へ伝えることが出来ました。

今年度も継続して取り組みを進めます。産物の利用を通し復興への力に少しでもなり、震災前の福島に戻る日まで、一緒に歩んで行きたいと思います。

コープぎふ　常勤理事　大坪光樹

震災から３年目、本当に月日がたつのを早く感じます。一方、月日の経過とともに、被災地を思う心も急速に熱が失われつつあるような気がしてなりません。この間、何度か被災地に向かう機会を与えていただきましたが、その都度、被災地の皆さんの「忘れないで」という言葉が今も耳に残っています。モノやおカネ以上に被災地を思う心、いつまでも寄り添う心を大切にして、これからも関わり続けていきたいと思っています。

コープいしかわ　組合員理事　奥迫敦子

コープいしかわを通して、被災地の方々の心に寄り添う支援のありかたを考えながら、北陸に住む私たちも支援活動をさせていただいています。被害の甚大さと復興の大変さを思うと、ともすれば無力感を覚えます。しかし、今こそ協同組合の理念とその力を信じて共に歩んでいきたいと、３年目を迎えた今、あらためて心に刻んでいます。去年の夏、被災地の男の子に教えてもらったすてきなお国言葉「がんばっぺし」。その響きをこれからも忘れません。

京都生協　店舗商品部　地産地消推進担当　福永晋介

あれから２年が過ぎたというのに、被災地は今まででいちばん苦しい時期を迎えているのかも知れません。「株高」だの「オリンピック」だの浮かれたニュースが流れる中、私は再建とか復興だとかが日に日に見えにくくなってきていると感じます。この２年の間に親しくなった南三陸のたくさんの人々の顔を思い浮かべるたびにそれを申し訳なく思います。協同組合ができることをそろそろ本気で始めていく時が今きているような気がします。

ならコープ　ディアーズコープいこま店店長　土阪元宏

昨年３月に「遠野災害ボランティア」に参加し、４月より「東北お手伝いショップ」として被災されたお母さんたちの手作りの雑貨品や焼菓子などのバザーを店内で行なってきました。売上金はわずかですが、毎月行なうことにより、一人でも多くの来店される組合員の皆さんが、震災のことを忘れず、復興への思いを形にできる場となればと続けてきました。

活動の輪が広がり、少しでもお役立ちできることを願い、13 年度も継続していきます。

コープこうべ　理事　藤本正子

阪神・淡路大震災を経験した地域の生協として、皆さまのことを私たちは絶対に忘れません。

長いお付き合いをしながら、哀しみも喜びも、ずっと一緒に分かち合っていきたいと思っております。

私たちからも「こんなことができますけど、どうですか？」と呼び掛けてまいります。重たい荷物は手分けして持っていきましょう。ご近所付き合いのように、ぜひ「隣のこうべ」にお声掛けください。

皆さまの笑顔が少しずつでも増えていきますように、私たちがお役に立てれば幸いです。

広島県生協連　福島 守

「本場広島のお好み焼きと“元気”をお届け続けます」

昨年「広島お好み焼き隊」を結成し、被災された３県の仮設住宅を訪問し、地元の生協の組合員さん、職員さんと一緒に焼いた、熱々のおいしい広島お好み焼きを食べていただきました。皆さんに笑顔になっていただけたこと、涙が出ました。いろんな支援の方法があるけど、今後もひと時でも喜んでいただきたい、笑顔になっていただきたい、元気になっていただきたいという思いを、お好み焼きに込めて、「顔の見える支援」を続けます。

コープかがわ　参与　アイリーニ・トクコ・石井

2011 年、被災地の方々はギリギリのところで踏ん張ってこられました。2012 年、被災地の方々はニョキニョキと荒れた大地で芽吹き始めています。全国の組合員の支援に応えようと……。

被災地の方々の笑顔は、私たちの喜び、慰め、励ましになっています。『お遍路コープ支援隊』のバトンは四国４県の絆をも繋いでくれ始めました！ そして 2013 年、被災地では以前と違った力強さを感じます。“青い国”四国から、私たちの想いが皆さま方の心に寄り添い、笑顔につながると信じながら、甘いお菓子を今日も選んでいます。

コープおおいた　理事　松尾孝子

この間、コープふくしまさんと協同し、事業や組合員活動を通して支援・交流活動を続けています。

１年目の夏は、放射線が心配で窓が開けられない小中学校へたくさんの扇風機をお送りしました。秋は、クリスマスリースを作るための松ぼっくりをお届けしたり（地面の放射線が心配）、春に向けては、貝雛をつくるためのハマグリの貝殻をお送りする（海岸が整備されていない、放射線が心配）など、組合員同士の交流の中から生まれた活動です。これからも安心して暮らせる福島になるまで、私たちが目となり耳となり、広く伝えることと、私たちにできる応援・支援を続けます。そして寄り添う気持を大切にしていきます。

コープかごしま　文化鑑賞会『まい・夢』運営委員　松下みゆき

テレビから流れる映像に釘付けの数日を送った衝撃の時からもう２年。募金に応じるだけの支援でいいのかという迷いの日々を過ごし、エイヤッと発起して９人で現地訪問したのが昨年の夏でした。いわて生協、宮古市の“かけあしの会”の方々と出逢え、被災地の海産物を中心とした商品販売ができるようになりました。

鑑賞会の会員の方へ商品を紹介し、購入してもらい、１人の小さな力を重ねて、大きな支援の一部になりたい。あの大きな被害に比べ、できることはほんとうに小さいけれど、これからもずっと続けていくつもりです。

ご案内：バックナンバーは、こちらをクリック！
URL：http://shinsai.jccu.coop/coopaction.html